



神奈川の風



平成28年6月27日号

校長 吉江 明洋

< 離してはいけないもの >

今年は梅雨入りしても晴天が続き、水不足が心配されていますが、ここ数日の雨で職員玄関脇の白い紫陽花も盛りを迎えています。

さて、失礼なことを聞くようで恐縮ですが、お子様の思いをご存じでしょうか。自信を持って「よく知っている」と答えられればいいのですが、意外に「知っているようで知らない」のが子どもの思いなのかも知れません。



中学生の年代は、親と話をしたがるらない時期でもありますし、親としても「仕事が忙しく、時間がないから」など、様々な理由でチャンスを逃していることがあります。しかし、この時期の子どもは、多くの大人との会話から学び、大きく成長する時期でもあります。

確かに中学生になれば、一人で脱ぎ着ができ、一人で食事を作り、食べることもできますが、それだけで親の手が離れたとは言えません。成人するまでは、社会の先輩として、また、人生の先輩として、自分の経験談を（もちろん失敗談も含めて）じっくりと話し、考えさせなければいけないことはたくさんあると思います。家庭でも連絡事項のやりとりだけでなく、お子様との会話が広がっているでしょうか。

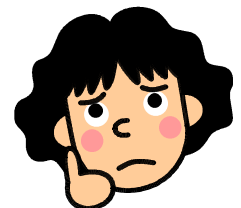


では、思い出してみましよう。身近にいるはずのお子様と昨日はどれくらい話をしたでしょうか。今日はどうでしょうか。夢や希望は何なのか、今、一番興味を持っていることは何なのか、困っていることがありそうだとか、なさそうだとか、仲のいい友達の名前が何人思い浮かぶでしょうか。もし、

一昨日の晩ご飯の内容を思い出すより難しかったら黄色信号かもしれません。また、「中学生だからこれくらい分かっているだろう」と親が思っていることでも、日頃から会話が少なく、教えられていなければ、年齢を重ねても意外に分かっていないことが多いものです。

学校での子どもたちの様子を見ても、甘えたりや話したがるの生徒がとても多いことに驚きます。また、残念ながら、小さいときにあまり抱きしめられていないんだろうな～と感じてしまう生徒もいるような気がします。

今からでも遅くありません。家庭でもっともっと話をしあげてください。そして、思いを聞いてあげてください。成長を促す本当の愛情で甘えさせて、人として大切なことは何かを話してあげてください。心で抱きしめてあげることが、これからの成長への一番の近道かもしれません。



親の心得四箇条は「乳児期は肌を離すな、幼児期は手を離すな、少年期は目を離すな、青年期は心を離すな」と言われます。まったく子育ては難しい…です。ともに頑張りましょう。